

人権だより

(令和3年度1月号)

川之石高校人権委員会 担当 1年次2組

冬らしい寒い日々が続いています。3年次生は、高校生活最後の年度末考査に向けて頑張ってください。1、2年次生は3年次生の後を引き継ぎ、勉強・部活動等、頑張ってください。今月は、1月14日に実施された3年次の人権・同和教育ホームルーム活動の報告と「心の和を広げる体験作文」の受賞作品の報告をします。

1 3年次人権・同和教育ホームルーム活動(デートDV防止出前講座)の報告

1月14日(金)の第6時限は、3年次生の人権・同和教育ホームルーム活動として、デートDV防止のためのDVD視聴と大洲人権擁護委員協議会(八幡浜部会)のメッセージを担当の先生から伝えていただきました。実施直前まで人権擁護委員のみなさんに来ていただき、お話を伺う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が警戒期に入ったため、急きょ変更になりました。「デートDV」は簡単に言うと様々な暴力を使って相手を思い通りにすることです。DVDではそれを解決する方法が示されました。DVDを視聴して分かったことや感想をまとめました。



デートDVが自分たちの身近に潜んでいることを初めて知りました。また、自分が気づいていないだけでそのような言動をしているかもしれません。自分や相手が互いに認め合い、尊重し合える関係を育てていくことが大事だと思いました。

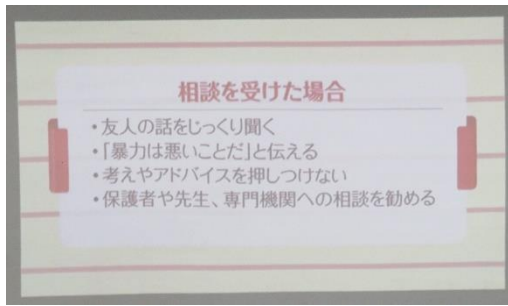
デートDVという言葉を知ったことはありましたが、具体的には知りませんでした。でも今回のホームルーム活動で専門的な知識のある大人や専門機関に勇気を持って相談したいと思いました。それは自分自身はもちろん、相手も助けることになるからです。

人権擁護委員さんから直接聞けなかったのは残念でした。私は、このような経験はありませんが、そのような人の心情は想像できるので、もし身近にいたらゆっくり話を聞きたいなと思いました。まずは共感することを心がけていきたいです。

自分が思っていたより起こりやすい問題だと思いました。デートDVとは「無視したり、束縛したりする」ことも該当することを知って驚きました。また、相手を好きだからという理由で行動したり、許したりするのもいけないことがわかりました。

言葉も内容も知っていたつもりでしたが、そんな状況にいる人の苦しみや悩みについては初めて理解できました。自分ができることは、相談されたら慎重に寄り添い、少しでも不安を和らげ、解決するために考えてあげることだと思いました。

相手の立場になって考えるとき、お互いの人間関係を崩すことのないようにすることが大切だと感じました。相談されたら「どうして別れないの?」と聞いてしまうかもしれません。でもこれは相手をさらに傷つけてしまうかもしれないことを学びました。また、暴力などを受けていることを知ったら「それはいけないことだよ」としっかり言えるようにしたいと思います。誰も悲しい思いをすることのないように、恋人同士でも配慮が必要だと改めて感じました。



2 「心の和を広げる体験作文」募集において愛媛県の優秀賞に選ばれました！

3の1、菊池^{あてな}愛聖さんの作文が優秀賞に選ばれました。この作文は、福祉サービス系列のみなさんが毎年、夏季休業中の課題（人権作文）として取り組むものです。障がいの有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重しあう共生社会を目指し、障がい者に対する県民の理解促進を図るため、毎年、愛媛県では「体験作文」と「ポスター」が募集されます。

受賞にあたり、菊池さんに福祉サービス系列で学んだことや受賞の感想などを聞きました。

【受賞の感想】

私はこの作文に、介護実習や福祉の授業、祖母との関わりを通して学んだことをまとめました。ですからこの受賞は、福祉を学び、祖母の存在があったからこそいただくことができました。この作文を書こうと思ったのは、祖母が病気により左片麻痺になり、「障がい」について考えることが多くなったからです。祖母は室内は杖で移動できますが、外出時は車椅子が必要です。おしゃれな祖母とはよくアクセサリーを買いに行きましたが、以前に比べると、その回数が減っているように思います。「車椅子だとみんなに迷惑をかける」という思いがあるようです。最近は通信販売を利用することもあります。祖母が祖母らしく楽しく生活するためにも、気持ちに寄り添っていきたくと思っています。また、今年のパラリンピックで「金メダル」に輝いた杉村英孝選手（ボッチャの日本代表）には「脳性まひ」という障がいがありますが、楽しそうにプレーされている姿がとても印象的でした。人は誰でも、その人らしく生きていくのが当たり前だと思います。そのような社会になれば多くの方が胸を張って楽しい人生を送ることができると思うので、そのためにも、私は福祉についてもっと勉強し、正しい知識を持って正しい行動ができるようになりたいと思っています。

【今後の抱負】

私は卒業後、作業療法士になるために専門学校に進学します。高校では、「利用者さん主体」で行う介護の基本や、介護を受ける側のニーズを明確にする大切さ、介護現場でのコミュニケーションスキルである「受容・傾聴・共感」の姿勢の大切さなどを認識できました。今後は利用者さんやその御家族に寄り添い、安心かつ前向きで楽しい気持ちでリハビリに取り組んでいただけるように、知識・技術の向上に努めていきたいです。まずは目の前に迫った介護福祉士国家試験の合格を目指したいと思います。

